

そぞろ宗兵衛江戸暦4 初春の空 藍川慶次郎



につぼんてい 日本堤	よしかわちよう 吉川町	くぜひろかげ たまお ぶんだゆう 久世広景 — 玉緒 (妻)、文大夫 (家宰)
さんやぼり 山谷堀	やげんぼり 薬研堀	お利与 (元奥女中)、利佐 (娘) = ふみ 芙美、専太郎 (利佐の恋人)
あさくさうまみち 浅草馬道	ばくろちよう 馬喰町	くぜさますけ せつたなおし はんべえ ためぐろう 久世左馬助 (長男)、雪駄直しの半兵衛 (手先)、水引の為五郎—イネ (娘)
はなかわど 花川戸	こでんまちよう 小伝馬町	うまのすけ つついうまのすけ みさと 右馬之助 (息子 内与力) = 筒井右馬之助 — 美里 (妻)
ろっけんぼり 六間堀	たちばなちよう 橘町	じんすけ しか 甚助 (中間)、彦四朗 (若党)、お鹿 (下女)
ときわちよう 常磐町	はまちよう 浜町	いちのしん 市之進 (岡崎藩浪人の子)
ふかがわいつしきちよう 深川一色町	しばいちよう 芝居町	くぜうまのすけ つついがのかみまさのり 久世右馬助 (次男) = 筒井伊賀守政憲 (南町奉行)
はまぐりちよう 蛤町	はせがわちよう 長谷川町	せいしんに 精心尼 (庵主 花の戸)
きくかわちよう 菊川町	とみざわちよう 富沢町	こちように りこうせん あげは 胡蝶尼、李江宣 (父 唐人閻取引)、揚羽 (母 お吉)、おしん (女童)
すざき 洲崎	たかさごちよう 高砂町	いぬいじろう ざえもん えいのしん とみ 乾次郎左衛門 (年番与力筆頭 美里の父)、栄之進 (養子) — 富 (母)
じゅうまんつぼ 十万坪	やつじ はら 八辻が原	かわだやきゆうすけ しな 河田屋久助 (船宿) — お品 (女房)
たつ ぐち 辰の口	ほんしろがねちよう 本銀町	すすきだじんさい 薄田仁斎 (町医者)
したやおかちまち 下谷御徒町	ほんこくちよう 本石町	さだきち 定吉 (玉屋の花火師)
したやねりべいこうじ 下谷練塀小路	じゅっけんだな 十軒店	かめふじ おきさ ゆきえ 亀藤 お喜佐 (女将 左馬助の娘)、幸江 (若女将)
さくまちよう 佐久間町	かなふきちよう 金吹町	せいすけ よきち かつじろう 清助 (番頭)、与吉 (板前)、勝次郎 (手代)
かんだまつしたちよう 神田松下町	かめじまちよう 亀島町	すがの でんじゅうろう すがの でんざえもん 菅野伝十郎 (隠密廻り同心)、菅野伝左衛門 (吉原の同心)
むこうやなぎはら 向柳原	みなみなべちよう 南鍋町	こぜきしんたろう まさえ くめ もさく 小関信太朗 (南町定町廻り)、正枝 (母)、お桑 (下女)、茂作 (下男)
やなぎはら どもて 柳原土手	やましたちよう 山下町	さきち 佐吉 (中間小者)、新吉 (手先 貸船つくだ屋の息子)

もりたりんぞう
森田林蔵（宗兵衛の旧友 植木名人）

ひなのゆ
雛乃湯 お京（後家）

こまぎく
駒菊（柳橋芸者）

ちよきち つるじ ほんぎよく
千代吉（辰巳芸者 板頭）、鶴次（半玉）

つた いづつ てれすけ ほうかん
お薦（引手茶屋 井筒 の女将）、照助（幫間）

みずきこういちろう みなみまちじょうまちまわり
水木弘一朗（南町 定町廻り）

さかきばらかずえのかみただゆき
榊原主計頭忠之（北町奉行）

さかぐち やしちろう
坂口弥七郎（北町 本所廻り同心）

こまつとも えもん
小松友右衛門（本所定町廻り同心）

みずのただあきら ひじかたぬいのすけ
水野忠成（老中首座）、土方縫之助（家老）

しょうじこうじ うちよりき
東海林光司（内与力）

まつだいらあわのかみただふき ながたびんごのかみまさくに
松平安房守忠房（火付盗賊改方）→ 永田備後守正邦（火付盗賊改方）

うらさと
浦里（長崎の女郎）

シーボルト（ドイツ人医師）— そのき
其扇（妻）、イネ（娘）

しまづなりおき しまづしげひで
島津斉興（薩摩藩主）、島津重豪（薩摩藩 隠居）

おくだいらまさたか
奥平昌高（中津藩主）

たかはしざくざえもんかげやす しもかべ
高橋作左衛門景保（天文方兼御書物奉行筆頭）、下河辺（表火番役）

むらがきあわじのかみさだゆき
村垣淡路守定行（勘定奉行）

まみやりんぞう もがみとくない
間宮林蔵（普請役 公儀隠密）、最上徳内（師）

よしおちゅうじろう
吉雄 忠次郎（通詞目付）

ながさきやげん えもん
長崎屋源右衛門（御宿）

いわごろう ひころく えいはち ごさく
岩五郎（石川島人足頭）、彦六、栄八、吾作、お富（世話役）、お春

いけだたいちろう
池田太一郎（寄場与力）

みずのみのかみただあつ
水野美濃守忠篤（御側御用取次）

かのうしゅういちろう
加納 修一郎（徒目付）

うらわやりへえ げん えもん
浦和屋利兵衛（回漕問屋）、源右衛門（兄 金座年寄吟味役）

ごとうさん えもん そうちき
後藤三右衛門（銀座年寄役 金座改役）、左右吉（元鍛金師見習い）

ちやうろく しろがね しげ けい
長六（銀師）— お繁（女房）、お恵（娘）

はぶげんせき げんしょう
土生玄碩（御典医）、玄昌（息子）

みじゃく
深雀（酒屋の隠居 地主）

さわきしょうさく つるじ さなえ
佐脇昌作（豊前小倉藩士）、鶴次、早苗（妹）

うえはらよいち
上原与市（儒者）

おたよ（煙草屋の娘）